ふくしま創生人財育成事業
「令和２年度ふくしま創生サミット」実施報告

令和２年１０月２６日（月）から令和２年１１月９日（月）にかけて、県内６地区において令和２年度ふくしま創生サミットを開催した（地区、期日、開場については下の表のとおり）。

地区	期日	会場
県北	令和２年１１月　５日（木）	福島北高等学校　大講義室
県中・県南①　※	令和２年１１月　６日（金）	郡山東高等学校　大会議室
県中・県南②　※	令和２年１１月　９日（月）	岩瀬農業高等学校　力農会館
会津・南会津	令和２年１０月２６日（月）	会津合同庁舎　新館２階　大会議室
いわき	令和２年１０月２８日（水）	平商業高等学校　平商の杜会館
相双	令和２年１０月３０日（金）	南相馬合同庁舎　４０１会議室

（※　県中・県南地区は、新型コロナウイルス感染症拡大防止等の観点から、２会場に分けて実施した。）

当サミットは、生徒たちが主権者として社会の中で自立するとともに、地域の課題解決に向けて他者と連携・協働しながら、主体的に考えて行動できる力を身に付けさせることで、地方創生の一員として郷土に貢献する人材を育てることを目的としている。

また、各校での地域課題探究活動の取組を共有する場を設けることで、取組の意義や地域の課題を再発見する機会にするとともに、課題解決に向けた探究活動を継続する意欲を醸成し、主体的･対話的で深い学びの実現に向けた学び全体の改善を目指すことも、当サミットの目的である。

地域課題探究活動は、全ての県立高等学校で実施している。各地区でのサミット当日は、各校から参加した代表生徒が、日頃の取組の様子や今後の地域の活性化を目指して、活発に意見を交わした。

サミット当日は各地区とも、生徒が複数の班に分かれて活動した。まず、各校でそれぞれ取り組んだ地域課題探究活動を班内で報告して、その内容を各班の代表が全体にむけて発表し、共有した。次に、共有した地域課題探究活動を踏まえ、自分たちが暮らす地域の課題を改めて焦点化し、その解決方法について高校生の視点から各班で協議し、ホワイトボードにまとめた。さらに、それらの課題が解決された場合の地域の未来像についても話し合い、そうした理想的な未来像を地域課題解決・ふくしま創生のための「宣言」として各班でフレーズ化し、協議内容とともにホワイトボードにまとめた。最後に、協議・話合いの成果及び「宣言」を、各班のメンバー全員によって全体に向けて発表した。

各地区でのサミットで共通していたことは、参加生徒各自が自分たちの住む地域の実情を踏まえて見出した課題を持ち寄り、他校の生徒と共有することで、「自分が考える課題は何か」から「自分たちが考えなければならない課題は何か」に思考をシフトさせようとする姿が見られたことである。また、震災以降に目立つようになった人口減少や、それに伴う地域の活力の減退を課題として設定していたことも、共通点であった。しかし、課題の背景にある問題点や具体的な解決方法、解決後の地域の未来像は、地区によって異なり、この点において、本報告を各校で共有する意義があるといえる。

以下に、各地区での当日の活動の様子をまとめた。各校において、今後の地域課題探究活動の充実に役立てていただくことを期待する。

（各地区で出された「宣言」は、本報告の最後に一括して掲載する。）

【県北地区　（令和２年１１月５日（木）、会場：福島北高校）】

県北地区では、５班に分かれて活動が行われ、それぞれの班から「宣言」が発表された。

各校からは、地産地消による地域活性化に向けた探究活動、学校・学科の特性を活かした製品開発や生産物販売、地元の観光資源を活かした地域活性化のための取組、ボランティア活動やイベントへの協力による地元自治体・企業との連携、ＳＤＧｓを踏まえた地域課題探究活動などが報告され、風評被害の克服や、人口減少にどのように歯止めをかけるかなどの課題が提出された。

各班での課題解決に向けた話合いでは、

- まずは自分たち若者が地元についてもっと理解し、誇りや愛着を高めるべき
- 地域の魅力を発信する際に、ＳＮＳに詳しい自分たちのような高校生の強みを活かすべき
- ゴミ拾いなどの清掃活動といった、すぐに実行できることから始めるべき

など、地方創生・活性化に向けた具体策が挙げられ、宣言としてまとめられた。

【県中・県南地区①　（令和２年１１月６日（金）、会場：郡山東高校）】

県中・県南地区①では、４班に分かれて活動が行われ、それぞれの班から「宣言」が発表された。

各校からは、教育水準向上（ＩＣＴの活用等）に向けた取組、いわゆるコロナ禍における地域交流の在り方、健康・防災・環境・産業等に関する地元行政への提言、地元自治体・企業と連携した６次化商品の考案、読み聞かせ等を通じた異世代間交流などが報告され、都市部と周辺部との格差や、事故のない安心・安全な生活環境の整備などの課題が提出された。

各班での課題解決に向けた話合いでは、

- 行政等への提言の他に、地域内での人的な「つながり」をもつべき
- 事故については、例えば自転車交通事故の多さを数字で示すなどして理解してもらうべき
- 都市部の活性化を目指すのか、周辺部の活性化を目指すのか、どちらかに特化すべき

など、地方創生・活性化に向けた具体策が挙げられ、宣言としてまとめられた。

【県中・県南地区②　（令和２年１１月９日（月）、会場：岩瀬農業高校）】

県中・県南地区②では、４班に分かれて活動が行われ、それぞれの班から「宣言」が発表された。

各校からは、伝統行事への参加をとおした地域の魅力発見、グローバルＧＡＰ認証取得を通じた風評被害の克服、地元自治体との連携協定に基づいたイベントへの参加、高齢化と地域医療の将来を関連させた探究活動、作成したフェイスシールドを地元の病院へ寄付した活動などが報告され、観光客誘致の在り方や、「風評」を「信頼」に変えるための発信方法、少子高齢社会における地域

活性化などの課題が提出された。

各班での課題解決に向けた話合いでは、

- 地元の伝統行事への観光客誘致のためには、交通や店舗等の利便性を高めるべき
- ワークショップを開催するなどして、自分たちの活動を直接、多くの人々に伝えるべき
- 人口流出を防ぐために、地元住民が住みよく感じるよう、ゴミ拾いといった小さな活動に力を入れるべき

など、地方創生・活性化に向けた具体策が挙げられ、宣言としてまとめられた。

【会津・南会津地区　（令和２年１０月２６日（月）、会場：会津合同庁舎）】

会津・南会津地区では、６班に分かれて活動が行われ、最終的に３つの「宣言」に集約された。

各校からは、医師不足解消のための仮説に基づいた検証・探究、障害者雇用率を向上させるための探究、地元産業や伝統のよさを市民と連携して発信する取組、地元スーパーと連携した農業活性化への取組、道の駅建設を目指した地元自治体との連携活動などが報告され、県内でも高齢化率が高い現状や、後継者不足、観光資源は豊富だが交通の便が不十分といった課題が提出された。

各班での課題解決に向けた話合いでは、

- バリアフリーやユニバーサルデザインを意識し、住民も観光客も過ごしやすい町にすべき
- 高校生の企画・立案による動画配信を行うなど、若者が注目するようなＰＲをすべき
- 観光地だからこそ、高校生が観光ボランティアになれるような学習・活動をすべき

など、地方創生・活性化に向けた具体策が挙げられ、宣言としてまとめられた。

【いわき地区　（令和２年１０月２８日（水）、会場：平商業高校）】

いわき地区では、５班に分かれて活動が行われ、最終的に４つの「宣言」に集約された。

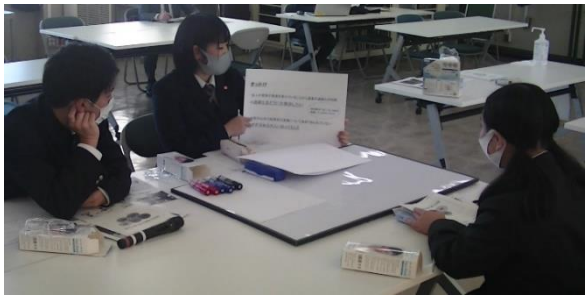
各校からは、高校生として活動できる廃炉や風評被害克服のための取組、感染症拡大防止のための衝立製作・寄贈活動、海岸や海洋環境の改善に向けた取組、地元特産品を活用した商品開発・販売活動、中学生に第一次産業の面白さを伝えることで後継者確保を試みる取組などが報告され、復興に向けた現状や具体的な取組について情報不足である、風評は科学的な安全性よりもイメージが先行してしまう、人口減少が後継者不足につながる可能性があるといった課題が提出された。

各班での課題解決に向けた話合いでは、

- 全国的に有名な観光地・レジャースポット・イベントの盛況ぶりを発信するべき
- トラムを整備するなど、人口減少を「コンパクトシティ」のイメージに発想転換するべき
- 子どもたちに、いわきを誇りに思えるようなＰＲをし、将来の人口を確保するべき

など、地方創生・活性化に向けた具体策が挙げられ、宣言としてまとめられた。

【相双地区　（令和２年１０月３０日（金）、会場：南相馬合同庁舎）】



相双地区では、２班に分かれて活動が行われ、それぞれの班から「宣言」が発表された。

各校からは、地元の港で陸揚げされる食材を使った料理や郷土料理の普及活動、高校生どうしで結成した団体による復興のための取組、商品開発・販売をとおして県外避難住民の帰還につなげる試み、震災被害を学校のプロジェクトとして語り継ぐ活動などが報告され、風評に拍車をかける報道（汚染水の問題や帰還率の低さ等）に対抗できる情報を知る必要がある、人口減少によって若者も流出してしまうことで住環境が悪化し産業も衰退しかねないといった課題が提出された。

各班での課題解決に向けた話合いでは、

- 人々がプラスのイメージを持てるような情報を発信するべき
- 第一次産業が体験できるツアーなどを企画し、実食してもらえる機会を設けるべき
- イベントなどをとおして、震災被害を伝えるとともに地域のよさを伝えるべき

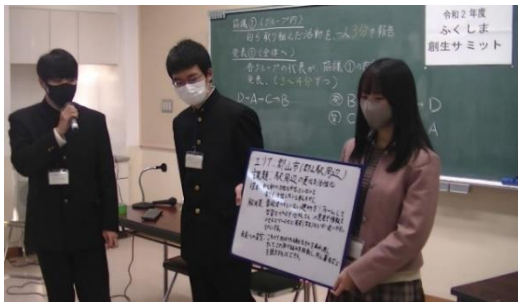
など、地方創生・活性化に向けた具体策が挙げられ、宣言としてまとめられた。

各地区で、自分たちが暮らす地域課題を共有化し、日頃の地域課題探究活動を活かした解決方法について話し合われた内容は、地方創生・活性化に向けた「宣言」として、以下のようにまとめられた。

宣言　（県北地区）

「若者と高齢者が共存共栄できる町づくりをしよう」
「みんなが住みやすい地域を若者主体で作る！」
「地元の魅力を知り、地元に貢献できる力を身に付け、発信しよう」
「農産物直売所を中心に地域のつながりの場を作ろう」
「福島の学生ならではの課題意識を盛り上げよう」

宣言　（県中・県南地区①）

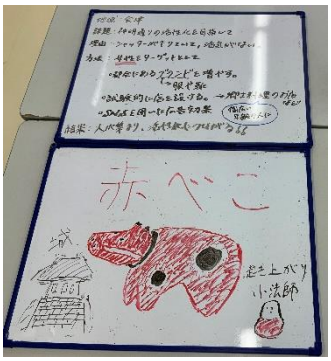


「建物を再利用して若者を集め、駅周辺を活性化させよう」
「私たちのＳＤＧｓ宣言～学習環境（Ｓ＝Study)、肥満防止（Ｄ＝Diet)、地域の成長（Ｇ＝Grow)、震災差別の解消（ｓ＝sabetsu)」
「安全で住みやすい環境づくりのために、世代を越えて地域との絆を結ぼう」
「中途半端をやめよう～都市部（人口集中）と周辺部（自然保護）の明確な住み分けを！」

宣言　（県中・県南地区②）

「県外からもリピーターが多く、イベントが豊富な街にしたい！」
「ＳＮＳを駆使し、活気あふれる、若者世代の『町』づくり！！」
「住民どうしの連携から地域の魅力発見につなげよう！」
「老若男女すべてが地域の魅力を知っている街にしよう！」

宣言　（会津・南会津地区）

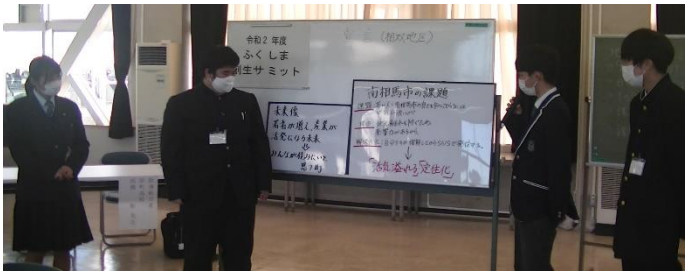


「風評払拭・若者増加のために、ＳＮＳなどで地域の魅力を自分たちの目線で発信！」
「町のメインストリート活性化のために、流行を活かして人々を呼び込もう」
「すべての人が住みやすい会津地方を作る！」

宣言　（いわき地区）

「正しい情報発信、観光資源の活用、地域との連携による人口流入を促進させよう」
「課題解決へのアプローチが豊富ないわき人を育成する！」
「高校生だからこそ知りたいいわきの情報アプリを、自分たちで作る！」
「農林漁業を活性化させ、いわきの子どもが、いわきの未来を担える町づくり！」

宣言　（相双地区）



「産業や観光資源を発信し、若者が住みたくなる相双にする！」
「活気があふれ、みんなが住みつづけたいと思う相双を作る！」

～これからも、高校生が主体となって、
地域に貢献できる活動の探究をつづけよう！～